

心理学分野におけるコアジャーナルの変遷

The chronological analysis of core journals in psychology

榛田倫子
Tomoko Harita

Résumé

The purpose of this paper is to survey core journals in psychology from the beginning of the field to 1985. Core journals are selected on the basis of frequency of citation in *Psychological Review* and *Psychological Bulletin* in 1905, 1925, 1945, 1965, 1985. These core journals are classified with the Dewey Decimal Classification codes in *Ulrich's International Periodicals Directory*.

Main findings are as follows:

- (1) each journal has been ranked differently in all the years, but four major types of ranking pattern are identified,
- (2) percentages of psychology journals (DDC 150-159) in the total core journals are increasing along the development of the field, and
- (3) research trends in the field affect core journals in each year.

- I. はじめに
- II. 心理学分野におけるこれまでのコアジャーナル調査
- III. 引用調査による心理学分野のコアジャーナルの選定
 - A. 調査目的
 - B. 調査方法
 - C. 調査結果
- IV. コアジャーナルの変遷にあらわれた分野の変化
 - A. 心理学分野の哲学分野からの独立
 - B. 心理学分野の確立と専門化
 - C. 心理学分野内の研究動向の変化

榛田倫子：慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻修士課程，東京都港区三田 2-15-45。
Tomoko Harita: Graduate School of Library and Information Science, Keio University, 2-15-45, Mita, Minato-ku, Tokyo.
1991年12月11日受付

D. その他の影響

V. おわりに

I. はじめに

コアジャーナルとは、特定分野において重要と見なされ、分野の情報流通の中心となる学術雑誌である。コアジャーナルとしては、各分野において様々な雑誌が選定される。分野全体を対象とする雑誌のみでなく、より広い領域を対象とする雑誌や、分野内の専門領域のみを対象とする雑誌などである。コアジャーナル中にこのような様々な雑誌が含まれることは、調査対象年における分野の研究動向の反映であると考えられる。

そのため、コアジャーナルの分析から、その対象分野を分析する研究が行われている。篠本らは、遺伝子工学における先端分野と既存分野の関係を、そのコアジャーナルの構造から分析している¹⁾。

分野の研究動向がコアジャーナルに反映しているという上記の視点から、その研究動向の変化に従って、コアジャーナルに含まれる雑誌も変化することが考えられる。

本稿では、特定分野のコアジャーナルの変遷を長期間にわたって調査し、各コアジャーナルの変遷には一定のパターンがあるのか、また対象分野の研究動向の変化がコアジャーナルの変遷にどのように影響しているのかを分析する。分野の確立直後の時期と、分野内が専門化し、多くの専門雑誌が創刊された時期とでは、選定されるコアジャーナルにも違いがあると考えられる。また、分野の発展過程における様々な研究動向の変化は、その時代のコアジャーナルに影響を与えると考えられる。

調査対象分野は、心理学分野とした。以下にその理由を述べる。

心理学分野は、“客観的に観察可能な人と動物の行動(意識を含む)を取り扱う科学”²⁾ “人間や動物の行動を研究し人間行動の理解を目指す科学”³⁾ などといわれる。初期は哲学の一分野とされていたが、生理学の影響を受け、19世紀末に科学として独立した。そして、20世紀に入り大きな発展を遂げた。現在では、その研究領域は社会科学と自然科学の中間に位置すると見なされ、自然科学、精神医学、社会科学、教育学などと関連している⁴⁾。

心理学分野の研究領域としての特徴では、これまでに以下の点が明らかになっている。

①一般には社会科学と見なされるが、医学分野への依存が大きい。関連する分野には臨床医学、生医学研究、脳学、生理学などがある。

日本の心理学研究者の投稿傾向を分析した長田による研究では、日本の研究者は、海外の医学雑誌、特に脳、生理学分野の雑誌への投稿が多いことが明らかになっている⁵⁾。

②一般、実験心理学では音響学、光学など物理学との関係も強い。

Pinski と Narin は 1973 年の *Science Citation Index* の心理学雑誌 71 誌の分析から、心理学分野内の研究領域の関係を調査した⁶⁾。研究領域を一般心理学、臨床心理学、発達・児童心理学、人格・社会心理学、実験心理学、行動科学、その他の心理学に区分し、心理学分野の雑誌をそれぞれに分けた。彼らは「心理学分野の研究領域の両端に臨床心理学と実験心理学がある」とし、各領域の雑誌の引用傾向を調べている。そして、各領域と臨床医学、生医学研究との関係、一般、実験心理学の領域と音響学、光学との関係を指摘した。

③引用文献の構成が社会科学中最も自然科学に近く、雑誌の引用が多い。他の社会科学分野の雑誌をほとんど利用しない。

Miwa らの調査では、心理学分野の引用文献の構成は社会科学中で最も自然科学に近く、雑誌からの引用が多かった⁷⁾。社会科学の他の分野では、引用文献中の雑誌の割合は 20-40% であるのに対し、心理学分野では約 60% であった。

上記の心理学分野は、以下の点から本調査の対象分野として適切と考えられる。

①比較的最近になって分野が発展したため、現在でも分野発展の初期の雑誌の調査が可能である。

②分野内の雑誌の分析が古くから行なわれている。

すでに 1936 年において Cason と Lubotsky は、雑誌間の影響、依存の関係を調べるため、心理学雑誌間の引用数のマトリクスを作成している⁸⁾。これによって、研究領域別に分類された各雑誌の、引用傾向の特徴が明らかにされている。

③雑誌の引用が多い⁷⁾。

分野の研究活動において雑誌がよく利用されているた

め、研究動向の変化が雑誌に反映すると考えられる。

④雑誌の評価研究が活発に行われている⁹⁾。

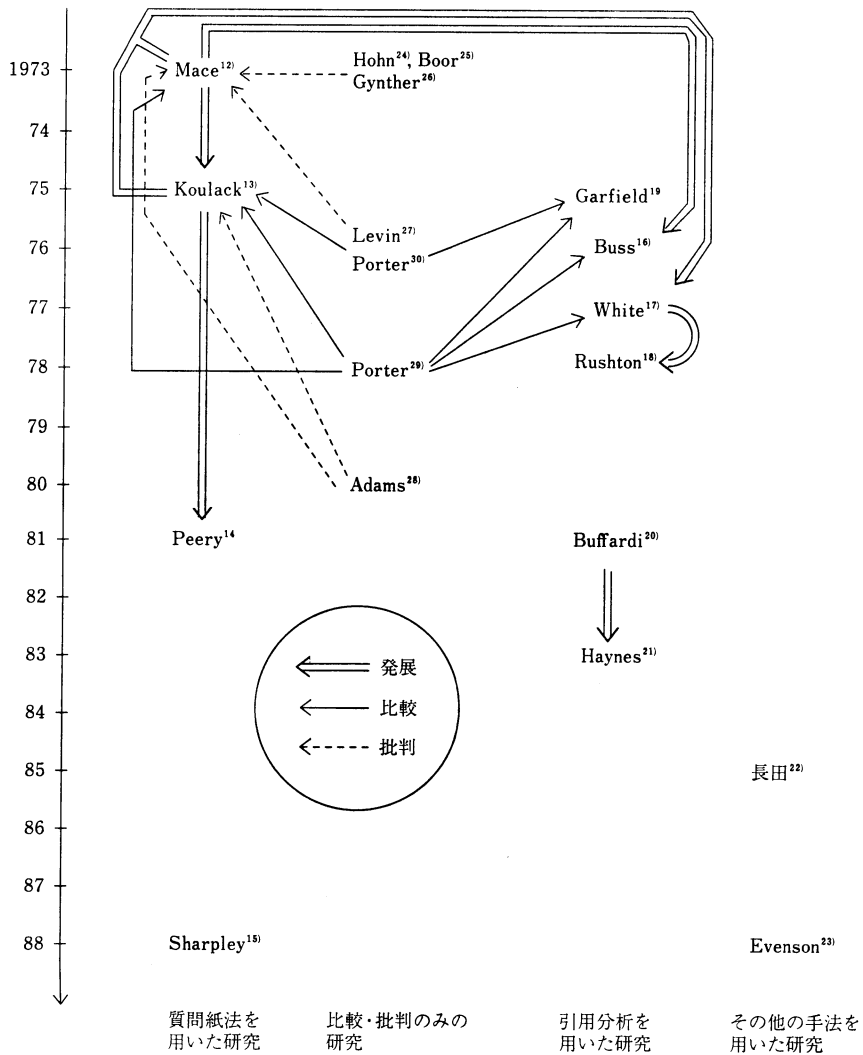
特に、心理学者が行ったものが多い。これは、コアジャーナル選定の基礎となる研究であり、本稿において各年代のコアジャーナルを選定する際、これらの研究から有効な情報が得られると考えられる。個々の雑誌評価研究については II で述べる。

以上の理由から、分野の発展過程に沿ってコアジャーナルの変遷を調べる対象分野として、心理学分野は適切であると考えられる。

II. 心理学分野におけるこれまでのコアジャーナル調査

コアジャーナルの変遷調査はあまり活発には行われていない。心理学分野におけるこのような調査での大きな研究成果はないようである。他分野における数少ない例として、農学分野における以下の研究がある。しかし、これらも対象期間が短い調査である。

藤本は、1962年から1974年までの、日本における農学分野の主要学会誌6誌が引用した雑誌を調査した¹⁰⁾。



第1図 心理学分野における雑誌の評価研究の流れ

第1表 心理学分野における雑誌の評価研究

著者名	質問	紙法	引用分析 (質問紙法との比較)
調査目的	Mace & Warner 1973 ⁽²⁾ 雑誌の専門的な評価の 確定	Peery & Adams 1981 ⁽¹⁴⁾ 重要雑誌の特定 (Koulackらと比較)	Buss & McDermott 1976 ⁽⁹⁾ 客観的方法での評価 (Maceらとの比較)
対象領域	Koulack & Keselman 1975 ⁽¹³⁾ 雑誌の専門的な評価の 確定 (Maceらの発 展)	Sharpley & Cash 1988 ⁽³⁾ 特定専門領域での雑誌 の専門的な価値	White & White 1977 ⁽¹⁷⁾ 客観的方法での評価 (Maceら, Koulack らと比較)
評価対象誌	Mace & Warner 64誌 PAの引用数と研究者 の評価で選択	発達心理学 特定せず	心理学分野 Maceら, Koulabkら からの57誌
調査方法	APA 会員 863 人に雑 誌の評価と回答者の 研究分野・職業を質 問	SRDC 会員 318 人に重 要と見なす10誌を質 問	Maceらの64誌 重要な3誌 (PB, PR, AP)での被引用回数
調査結果	全体の上位100位のラ ンク表と回答者の属 性別の上位10誌のラ ンク表 回答者の属性によっ て雑誌の順位が変わ った	165誌が挙げられた ランク表と重要と見 なす順位でのランク 表 知名度の高い雑誌は と、質が高いと判断 された	SSCI1974の10%のデ ータでの影響度 影響度によるランク表
上位10誌	J. Comp. Physiol. P. J. Person. Social P. PR J. Experimental P. Annual Review P. PB Developmental P. Child Development J. Forensic P. J. Abnormal P.	Child Development Developmental P. Monographs SRCD Harvard Educ. Rev. J. Pediatrics J. Exper. Child P. Merrill-Palmer Q. Pediatrics Annual Review P. J. Person. Social P. J. Educational P.	J. Verb. Learn. Behav AP J. Appl. Behav. Anal. J. Mathematical P. J. Exper. Social P. PB J. Exper. Child P. Child Development J. Comp. Physiol. P. Developmental P. J. Exper. Anal. Behav
	AP PB J. Consult. Clin. P. PR J. Abnormal P. Psychology Today Science Annual Review P. J. Person. Social P. J. Educational P.	Psychotherapy Behavior Therapy Professional P. P. in the Schools J. Abnormal P. J. Consult. Clin. P. Brit. J. Clin. P. J. Clinical P.	J. Experimental P. PB J. Abnormal P. PR J. Comp. Physiol. P. AP J. Person. Social P. Science Psychonom. Science J. Consult. Clin P.
	回答者全体での順位	重要と見なす順位	総合順位

第1表 心理学分野における雑誌の評価研究 (続き)

	引用分析 (質問紙法との比較)	引用分析 (尺度の分析)	その他
著者名	Rushton & Roediger 1978 ⁽⁵⁾	Garfield 1975 ⁽⁹⁾	Haynes 1983 ⁽¹⁾
調査目的	客観的方法での評価 (White らの発展)	心理学研究文献の引 用・被引用関係	経験的な手法での雑誌 の評価
対象領域	心理学分野	心理学・行動科学 (臨床領域を除く)	心理学分野
評価対象誌	特定せず	特定せず	特定せず
調査方法	SCI 1974/JCR 1975 で の影響度	SCI 1969の第4四半期 での被引用回数など	JCR 1980から計算した 専攻領域影響度
調査結果	影響度による80誌のラ ンク表 Maceらや Koulackら との類似度が低かつ た	被引用回数・専攻領域 影響度での77誌のラ ンク表	専攻領域影響度での31 誌のランク表
上位10誌	PR Cognitive P. PB J. Verb. Learn. Behav Annual Review P. Vision Research Psychophysiology J. Exper. Anal. Behav J. Exper. Child P. Child Development	PR PB J. Exper. Anal. Behav J. Experimental P. J. Exper. Social P. J. Person. Social P. J. Comp. Physiol. P. J. Verb. Learn. Behav Behav. Res. Therapy Canadian J.P.	Nature Science Scientific Amer. Amer. Sociol. Review PR J. Acoust. Soc. Amer. American J.P. J. Optical Soc. Amer. J. Abnormal P. PB
		Buffrudi & Nichols 1981 ⁽³⁰⁾	長田 1985 ⁽²³⁾
		影響度に関わる要因	学術雑誌収集のあり方 の検討
		心理学分野	心理学分野
		99誌 雑誌リストと SSCI/ JCR 1977, 78の収録誌	洋雑誌1003誌 PA/1978での収録誌
		SSCI/JCR 1977, 1978 の影響度	学術雑誌総合目録での 所載誌数
		影響度によるランク表	100以上で所載されて いる74誌の所載誌数 でのランク表
		PR PB Cognitive P. AP J. Exper. P.: General J. Person. Social P. Behavior Therapy Monographs SRCD American J.P. J. Comp. Physiol. P.	精神衛生学関係の図書 館での文献複写依頼 数
		PR PB J. Exper. Anal. Behav J. Experimental P. J. Exper. Social P. J. Person. Social P. J. Comp. Physiol. P. J. Verb. Learn. Behav Behav. Res. Therapy Canadian J.P.	1986-7年に50回以上複 写された52誌のラン ク
		PR PB J. Exper. Anal. Behav J. Experimental P. J. Exper. Social P. J. Person. Social P. J. Comp. Physiol. P. J. Verb. Learn. Behav Behav. Res. Therapy Canadian J.P.	Amer. J. Psychiatry Hosp. Comm. Psychiat Arch. Gen. Psychiat. British J. Psychiat P. Reports J. Nerv. Ment. Dis. J. Consult. Clin. P. Amer. J. Psychother. Amer. J. Ment. Defic. Ment. Retardation
		専攻領域影響度での順 位	

APA : American Psychological Association
 SRCD : Society for Research in Child Development
 PA : Psychological Abstracts
 PB : Psychological Bulletin
 PR : Psychological Review
 AP : American Psychologist

第2表 既往調査での雑誌の順位

順位	雑誌名	Mace 1973 ⁽¹²⁾	Koulack 1975 ⁽¹³⁾	Garfield 1975 ⁽¹⁴⁾	Buss 1976 ⁽¹⁵⁾	White 1977 ⁽¹⁶⁾	Rushton 1978 ⁽¹⁷⁾	Buffardi 1981 ⁽¹⁸⁾	Haynes 1983 ⁽¹⁹⁾	Peery 1981 ⁽¹⁴⁾	長田 1985 ⁽²⁰⁾	Evenson 1988 ⁽²¹⁾
1	Psychol. Bulletin	6.5	2.0	2.0	2.0	5.5	3.0	2.0	14.0	23.0	9.5	51.5
2	Psychol. Review	3.0	4.0	1.0	4.0	12.0	1.0	1.0	5.0	20.0	5.0	5.0
3	J. Comp. & Physiol. Psychol.	1.0	24.0	7.0	5.0	8.5	12.0	10.0	26.0		23.0	
4	American Psychologist	12.0	1.0	31.0	6.0	2.0	21.0	4.0	8.0	25.0	49.0	21.0
5	J. Exper. Psychol.: Gen. (J.E.P)	4.0	17.0	4.0	1.0	25.0	22.0	5.0	12.0		13.5	
6	J. Person. & Soc. Psychol.	2.0	8.5	6.0	7.0	25.0	26.0	6.0	9.0	10.5	12.0	24.0
7	J. Abnorm. Psychol.	10.0	5.0	11.0	3.0	19.5	24.5	14.0	11.0		9.5	32.0
8	J. Verb. Learn. & Verb. Behav.	14.0	47.0	8.0	11.0	1.0	4.0	12.0	7.0	28.0	62.5	
9	Child Development	8.0	12.0	28.0	12.0	8.5	10.0	26.0		1.0	13.5	46.0
10	J. the Exper. Anal. of Behav.	30.0	26.0	3.0	13.0	10.5	8.0	34.5				
11	J. Exper. Soc. Psychol.	22.5	30.0	5.0	30.0	5.5	23.0	22.0	16.0			
12	J. Consult. & Clin. Psychol.	44.0	3.0	12.0	10.0	21.5	32.0	16.0	27.0		53.0	7.0
13	J. Applied Psychol.	29.0	13.0	19.0	16.0	29.0	45.0	17.0	20.0		22.0	
14	Behav. Res. & Therapy	42.5	29.0	9.0	29.0	21.5	24.5	18.0				50.0
15	J. Educ. Psychol.	60.0	10.0	15.0	27.5	13.5	35.0	27.0	30.0		20.0	
16	J. Person.	32.5	22.0	17.0	18.0	29.0	29.0	41.0	28.0		28.0	
17	Amer. J. Psychiatry	37.0	25.0	47.0	26.0	35.5	11.0	9.0			51.5	1.0
18	Brit. J. Psychol.	17.5	50.0	22.0	23.5	16.5	33.0	53.0			34.5	
19	Psychometrika	21.0	42.0	20.0	19.0	35.5	31.0	48.0			29.5	
20	Amer. J. Psychol.	16.0	33.5	29.0	15.0	25.0	50.0	74.0			7.0	
21	Canad. J. Psychol.	31.0	69.0	10.0	41.5	29.0	37.0	58.0				14.0
22	J. Clin. Psychol.	46.5	11.0	32.0	33.0	41.5	54.0	80.0			34.5	16.5
23	Perceptual & Motor Skills	49.0	41.0	26.0	20.0	47.5	63.0	89.0			45.0	27.0
24	J. Soc. Psychol.	56.0	35.0	30.0	27.5	35.5	66.0	86.0			17.0	
25	J. Psychol.	32.5	56.0	27.0	25.0	54.0	72.0	79.0				
26	Psychol. Reports	62.0	48.0	25.0	14.0	47.5	65.0	90.0				5.0
27	Human Relation	46.5	39.0	40.0	41.5	54.0	73.0	59.0			11.0	
28	Educ. & Psychol. Measurement	58.0	15.0	34.0	31.5	47.5	78.0	95.0				
29	J. General Psychol.	59.0	63.5	33.0	38.5	41.5	61.0	91.0				
30	J. Genetic Psychol.	51.5	66.0	42.0	47.0	56.5	57.0	93.0		29.0	37.0	

学会誌それぞれにつき、被引用数の多い上位 10 誌に対する引用が全体に占める割合の経年変化を提示した。また、この上位 10 誌の順位について、各年別に相関係数を出した。

岡谷は、外国雑誌の利用分析の研究において、東京農工大学農芸化学科の教員の業績における引用を収集した¹¹⁾。そして、それぞれの雑誌が引用された割合から、雑誌の被引用率の変遷をタイプ分けした。被引用率が上位である雑誌中の安定型は 5 誌、下位誌中の安定型は 4 誌であった。また、不規則型などのタイプも見いだされた。

上記の研究と異なり、心理学分野で行われているのは、特定の一時点における雑誌の評価調査が中心である。調査方法は、質問紙法と引用分析が主に用いられている。以下に述べるこれらの調査の概要を、第 1 表にまとめた¹²⁾⁻²³⁾。

近年の心理学分野での雑誌評価の研究は、Mace らの質問紙法によるもの¹²⁾から始まる。その後、Koulack ら¹³⁾、Peery ら¹⁴⁾ などによって、質問紙法を用いた場合の手法の改善が試みられた。また、引用分析による調査も行われるようになり、それぞれの手法での結果の比較も行われている。このような各調査間の影響関係を、第 1 図に示した。

1973 年に Mace ら¹²⁾ が調査した際に用いた質問紙法は、その分野の専門家に雑誌の評価を依頼し、雑誌の専門的な評価を調べる手法である。Koulack らは、質問紙法では“我々の同僚がどの雑誌を重要と見ているか、また特定の興味を持つ読者に達する為にはどの雑誌に投稿すべきかがわかる”¹³⁾と述べている。Mace ら¹²⁾ は、大学の心理学科長に、提示したリスト中の雑誌の評価を依頼した。この調査結果には、多くの批判がある²⁴⁾⁻²⁸⁾。

- ①雑誌のリストを提示して評価を求める方法では、雑誌の質と知名度が混同されている。
- ②回答者に提示した雑誌のリストの内容に不備がある。
- ③回答者の属性が評価に影響している。

学科長は一般に基礎分野を専門とするので、彼らによる応用分野の雑誌の評価には片寄りがある。

- ④主観的にみて、もっと順位が高いはずの雑誌がある。
- ⑤質問紙法による評価はある特定の視点の反映に過ぎない。

これらへの対策として、1975 年には、Koulack ら¹³⁾ が③について改善を試み、回答者の属性別に調査結果を分析した。1981 年には、Peery ら¹⁴⁾ が①についての改

善を試み、雑誌の質の評価である重要な雑誌として与えられた順位と、雑誌の知名度の評価である重要な雑誌として挙げられた回数の 2 点から結果をまとめている。また、⑤については、これらの雑誌の評価調査を比較した Porter²⁹⁾ が“すべての研究は特定の視点から行なわれたもので、引用調査についても同じである”と反論している。

1976 年より、上記の質問紙法による調査結果と、引用分析における調査結果との比較が行われている。Buss ら¹⁶⁾ は Mace ら¹²⁾ の結果と、White ら¹⁷⁾ は Mace ら¹²⁾、Koulack ら¹³⁾ の結果と比較している。

この他に、引用分析による調査には、雑誌の評価とともに、雑誌を評価する尺度の妥当性の検討も行う研究がある。Garfield¹⁹⁾ は被引用回数、専攻領域影響度、Buffardi ら²⁰⁾ は影響度、Haynes²¹⁾ は専攻領域影響度を用いて調査している。

また、雑誌を所蔵している図書館の数、図書館での複写依頼数などでの調査がある。日本における洋雑誌の所蔵館数から分析を行った長田は、“上位 74 誌が心理学におけるコア雑誌であるかどうかは一概には決められない”²²⁾ としながらも、この調査方法もコアジャーナルを決める 1 つの尺度となるだろうと述べている。

次に、上記の既往調査での評価の結果(順位)を、Porter の表^{29)、30)}を参考にして第 2 表にまとめた。ここでは、Haynes²¹⁾、Peery¹⁴⁾、Sharpley ら¹⁵⁾、長田²²⁾、Evenson²³⁾、以外の、全ての調査に現れる雑誌を平均順位の高い雑誌から並べた。Haynes²¹⁾ の結果では上位 4 誌が年刊の資料であり、他の調査と選定された雑誌の違いが大きい。また、Peery¹⁴⁾ と Evenson²³⁾ は、心理学分野全体ではなく特定研究領域を対象としている。長田²²⁾ の調査結果は日本のものである。これらは参考として付与した。Sharpley ら¹⁵⁾ は 8 誌のみの調査であるため除いた。

最も重要と見なされた 1 位の雑誌は、Mace ら¹²⁾ では *Journal of Comparative and Physiological Psychology*、Koulack ら¹³⁾ では *American Psychologist* である。また、White ら¹⁷⁾ では *Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior* である。このように、調査年度、調査方法によって各雑誌の順位は様々であった。

なお、*Psychological Bulletin* と *Psychological Review* は、ほとんどの調査で上位 5 誌に含まれていることがわかる。この結果から、これら 2 誌が心理学分野に

において重要な雑誌であることは間違いないと考えられる。

III. 引用調査による心理学分野の コアジャーナルの選定

A. 調査目的

この調査では、心理学分野の発展過程の各年代におけるコアジャーナルを同一の方法で選定し、以下の2つの観点から分析を行う。

①個々のコアジャーナルの順位の変遷

コアジャーナル各誌の順位が、各調査年を通じてどのように変化してきたかに注目する。各コアジャーナルを順位の変遷に基づいてタイプ分けした。

②各年度のコアジャーナルの傾向

個々のコアジャーナルの雑誌名、順位は考慮せず、各年の「コアジャーナル群」として、分類、出版国、創刊年の3点からどのような傾向がみられるかを分析した。

B. 調査方法

1. 手法

本稿では過去のコアジャーナルを現在のコアジャーナルと同じ基準で選定する必要がある。上述の既往調査で用いられた手法の内、質問紙法はそれぞれの時代の専門家に調査を依頼しなければならないため、利用できない。そのため、引用分析を用いる。対象誌を選択し、対象年各年の1年分ずつその引用文献を集計する。評価の尺度としては、被引用回数を用いる。

2. 対象誌

引用文献を集計する対象誌の条件としては、以下の3点が考えられる。

- ①分野内で重要視されている。
- ②心理学分野で早くから創刊されている。
- ③ある程度の引用文献を持ち、引用活動を活発に行っている。

これらを満たす雑誌を既往調査の結果から選定した。対象誌の引用傾向の偏りが調査結果に影響しないようにするため、対象誌は複数設定することにした。

IIで述べたように、*Psychological Bulletin* (以下 *PB* とする) と *Psychological Review* (以下 *PR* とする) は、これまでに行われたほとんどの調査で上位5誌に含まれており、心理学分野において重要な雑誌と考えられる。創刊年と引用数の条件については、*PB* は1904年に、*PR* は1894年に創刊されており、現在まで約90

年間の調査が可能である。また、Cason ら⁸⁾によると、1933年の引用数は *PB* が3275件、*PR* が475件であり、データ件数の点からも調査が可能であると考えられる。

以上の結果から、本稿では、*PB*、*PR* の2誌を引用文献収集対象誌とする。なお、この2誌はアメリカ心理学会 (American Psychological Association, 以下 APA とする) が発行しており、心理学分野内の特定の研究領域に偏らない編集方針をとっているといわれている¹⁶⁾。

3. 対象年

心理学分野の発展過程と関連付けて分析するため、できるだけ発展に即して対象年を設定する。諸説あるが現代心理学の始まりは1879年とされ、最初の心理学雑誌と見なされている *Mind* の創刊は1876年である³¹⁾ので、これに近い時期から現代までを調査する。

実際に調査する年は1905年、1925年、1945年、1965年、1985年の5回とする。1905年以前は、心理学分野の論文、雑誌が少なく、引用文献も少ない。そのため、コアジャーナルを選定するのに十分な程の引用文献数が得られないと考えられる。

なお1985年分は *Social Sciences Citation Index* の1985年の *Journal Citation Report* を利用した。

4. 集計範囲

PB、*PR* に掲載された研究論文の引用文献、脚注などから、それらが引用している雑誌を集計する。書評、抄録、ニュースなどの研究論文以外の部分は、集計対象から除いた。

5. 雑誌名の変遷

雑誌名の変遷は、学術雑誌総合目録 (欧文編) 1988年版 (以下学術雑誌総合目録とする) を用いて調べた。

各雑誌の長期間における変遷を調査するため、雑誌名が変更された場合は、旧誌名での被引用回数を、新誌名での被引用回数に加えた。合併、分化した場合は、合併前の雑誌と合併後の雑誌、分化前の雑誌と分化後の雑誌は別々であるを見なした。ただし、合併、分化の際に旧雑誌と同じ雑誌名を持つ新雑誌があれば、その雑誌のみは旧雑誌から継続しているとみなし、新旧の雑誌を同一のものと考えた³²⁾。

6. 分類・創刊年・出版国の付与

学術雑誌総合目録 と *Ulrich's International Periodicals Directory* 1988-89 (27th Edition) (以下 *Ulrich's* とする) を用いて創刊年、出版国を調べ、デューイ十進分類法 (19th ed.) による分類 (以下 DDC 分類とする)

第3表 引用数集計結果

	1905 (’04-06)	1925	1945	1965	1985
掲載論文数	108	39	109	110	96
引用数	656	1288	2022	5447	**
1論文当引用数	6.1	33.0	18.6	49.5	**
雑誌引用数	331	881	1256	4096	7024
雑誌引用の割合	50.5%	68.4%	62.1%	75.2%	**

を付与した。Ulrich's に分類が掲載されていなかった雑誌は、雑誌名から分野を想定して DDC 分類を付与した。

Ulrich's による DDC 分類利用の長所としては、調査者の主観が入らずある程度客観的であること、心理学分野以外の分野についても網羅的にデータが得られること、比較的容易にデータを入手できることが挙げられる。

なお、この DDC 分類を用いて、コアジャーナルを以下のように分けた。

①心理学一般誌

心理学分野である DDC 分類の 150-159 の内、心理学一般を示す 150 のみを持つコアジャーナル。

②心理学専門誌

心理学分野である DDC 分類の 150-159 の内、心理学分野内の専門領域を示す 152-158 を持つコアジャーナル。または、心理学一般である 150 とともに、教育学、社会学などの、心理学分野以外の分類を持つコアジャーナル。

心理学一般誌、心理学専門誌を合わせて「心理学分野の雑誌」とする。

③心理学分野以外の雑誌

上記の①②以外の雑誌。

心理学一般誌のコアジャーナルは、分野形成の初期によく創刊され、利用されるのではないかと考えられる。また、心理学専門誌のコアジャーナルは、心理学一般誌よりも内容が専門的であろう。そのため、分野がより発展した段階で創刊され、利用されると考えられる。

C. 調査結果

1. 集計結果

各年ごとの引用数集計結果を第3表に示した。

1905 年は PB, PR 各 1 年分では引用文献数が約 100 と少なすぎたため、1904 年、1906 年を加え 3 年分を集

第4表 選定されたコアジャーナル数

	1905 (’04-06)	1925	1945	1965	1985
コアジャーナル数	33誌	48	42	40	26
A ランク	12	11	11	23	14
B ランク	8	11	11	23	8
C ランク	13	26	20	4	4
引用数の 0.5%	2件	4	6	21	35

計した。引用文献数が 20 年で倍増していることが分かる。

2. コアジャーナルの選定

本調査ではコアジャーナルの条件を「1 誌でその年度の雑誌引用数の 0.5% を占める雑誌」とした。1905 年より 2 件、4 件、6 件、21 件、35 件以上引用された雑誌となる。その結果、1905 年より 33 誌、49 誌、42 誌、40 誌、26 誌のコアジャーナルが選定された。

ただし、PB, PR の片方のみでしか引用されない雑誌には、合計引用回数での順位は問題がある。その修正のため、コアジャーナルを A, B, C のランクに分けた。

A PB, PR 両誌で 0.5% 以上を占めている雑誌

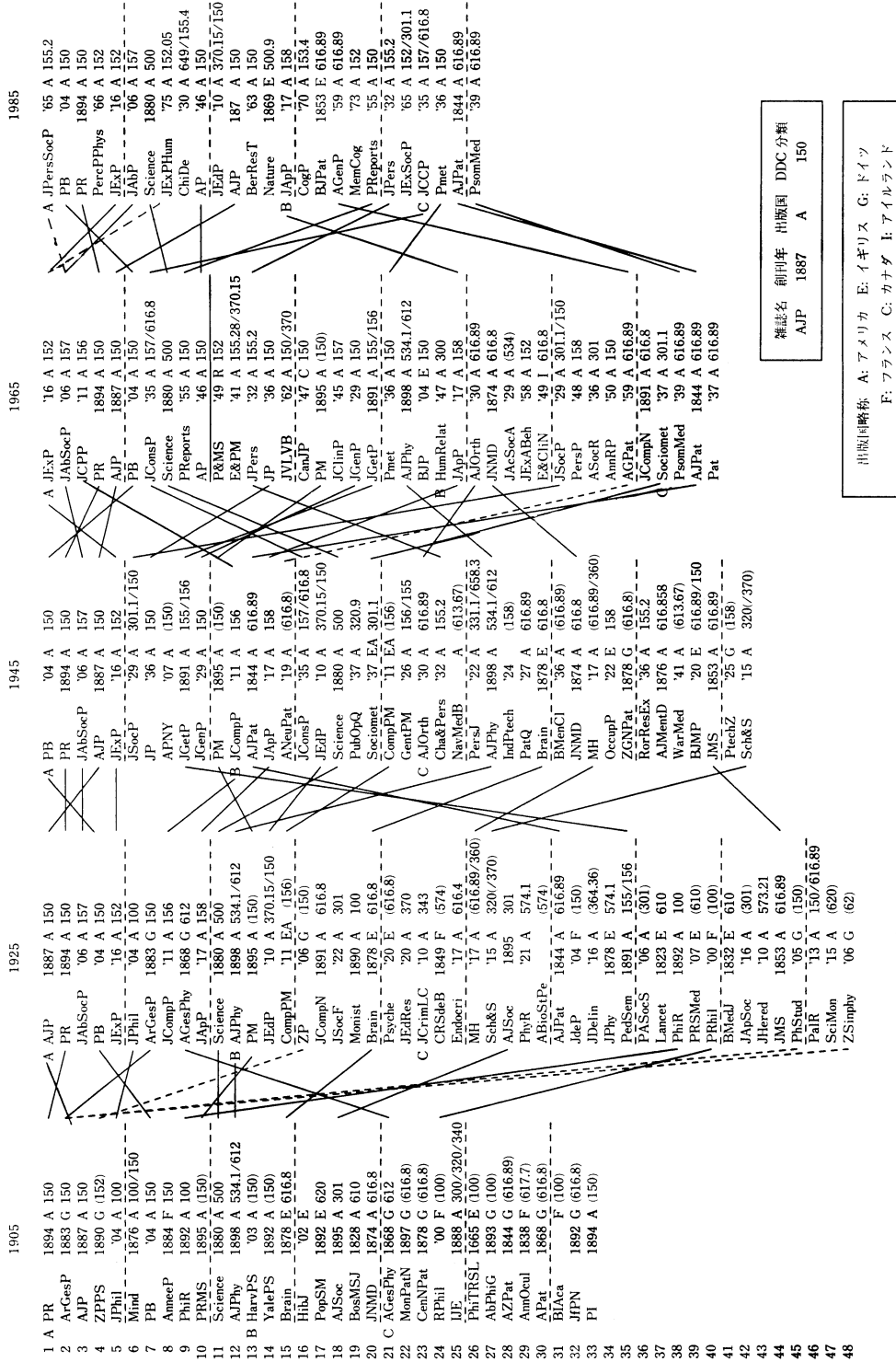
B 1 誌のみ 0.5% 以上を占め、他方では 1 回以上引用された雑誌

C 1 誌のみ 0.5% 以上を占め、他方では引用されなかった雑誌

である。選定されたコアジャーナル数などを第4表に示した。

第2図はコアジャーナルとして選定した雑誌のリストである。上から A, B, C ランクの順で並んでいる。Ulrich's に DDC 分類が掲載されていなかったため今回雑誌名から判断して付与したものは、() に入れた。また、各年のコアジャーナルで同じ雑誌を線で結んだ。点線は前年度の雑誌から分化、派生したことを示す。引用数の集計では別の雑誌と見なしたが、雑誌同士の関連

心理学分野におけるコアジャーナルの変遷

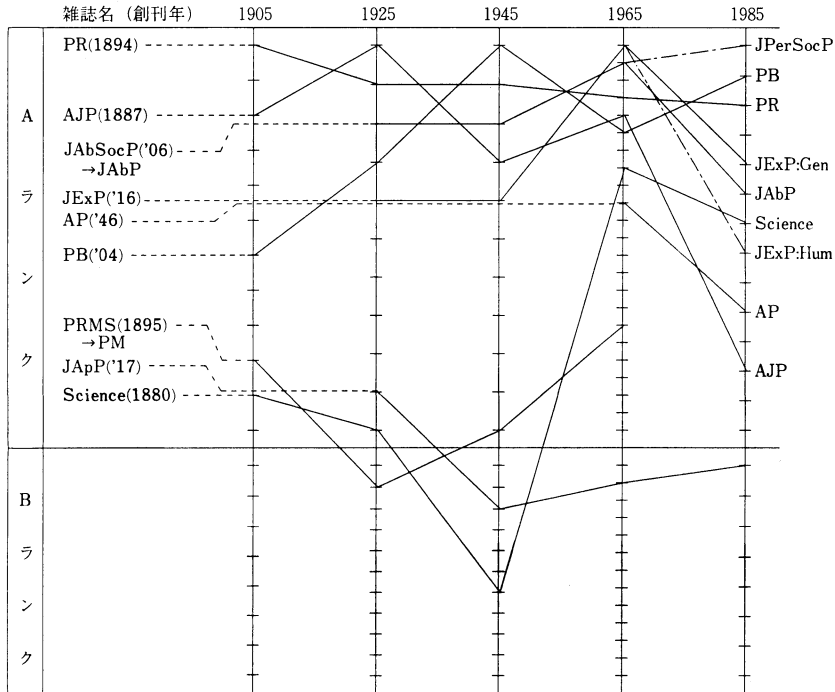


雑誌名 創刊年 出版国 DDC 分類
 AJP 1887 A 150

出版略称 A: アメリカ E: イギリス G: ドイツ
 F: フランス C: カナダ I: アイルランド

(雑誌の正式名称は付録参照)

第2図 選定されたコアジャーナル



(雑誌の正式名称は付録参照)

第3図 安定型の変遷

はあるので参考として結んだ。

全コアジャーナルは 115 誌 (延べ 189 誌) であった。そのうち心理学分野を対象とする雑誌は、DDC 分類の 150-159 (心理学) のみ付与された雑誌と、150-159 と他の分類とを重出されていた雑誌である。これらの合計は 53 誌であった。

3. 各コアジャーナルの順位の変遷の傾向

上記の調査で得られた各コアジャーナルの順位の変動を、以下のようにタイプ分けした。順位の上昇、下降の目安としては、引用文献収集対象誌 2 誌における被引用回数の偏りを示す A, B, C ランク内をそれぞれ上位と下位に分け、その 6 区分での変化を用いた。

全コアジャーナル 115 誌の内、2 回以上現われた雑誌を 4 つのタイプに分けた。安定型、下降型、上昇下降型、変動型である。なお、1 回しかコアジャーナルとして現われなかった雑誌は 77 誌であった。

a. 安定型

安定型は、創刊後、次の調査年度から登場しており、その後、6 区分での変動が少ない雑誌とした。これに当

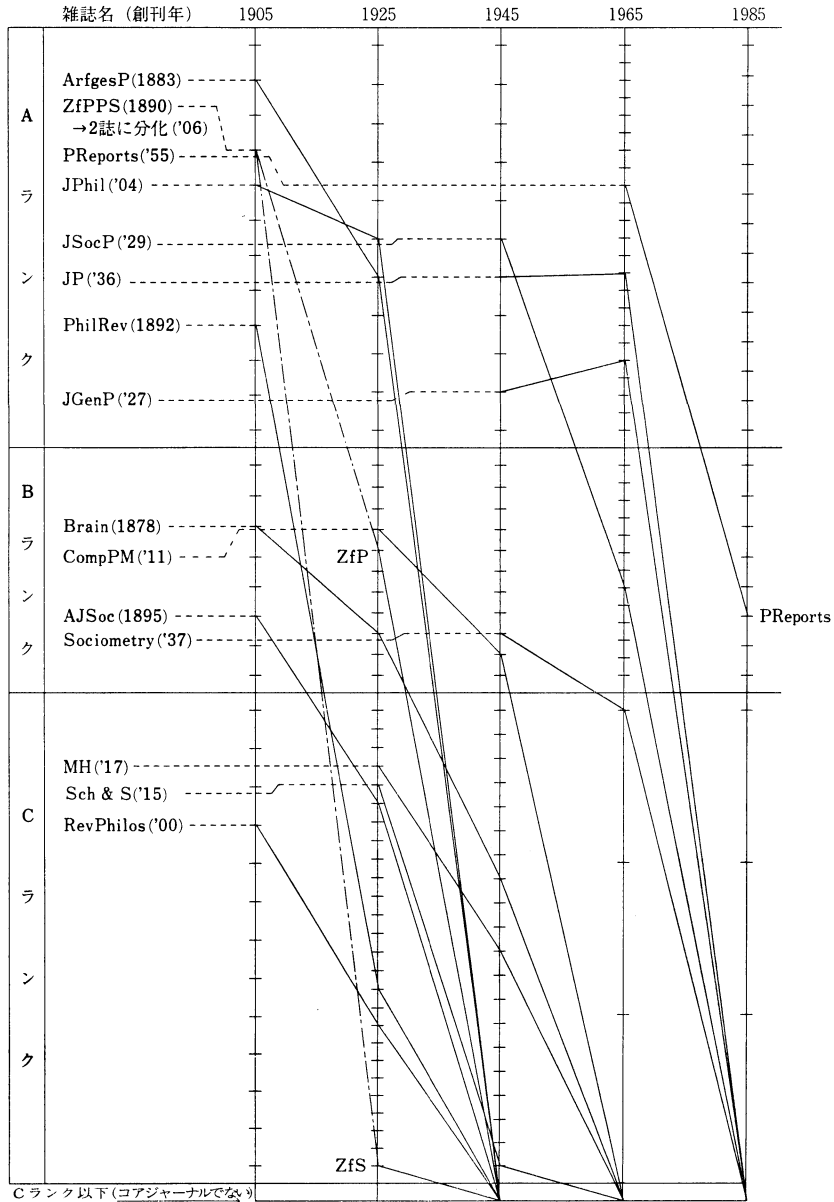
てはまるコアジャーナルは 9 誌であった。安定型のコアジャーナルの順位の変遷を第 3 図にまとめた。

この図は基本的には第 2 図と同じ構造である。ただし、各年度のコアジャーナル数の差が順位の変遷に影響しないように、各年度で順位の間隔を調整し、A, B, C ランクそれぞれについて各年度を同じ大きさにしている。各コアジャーナルは図中の目盛りで示されている。つまり、1985 年の A ランクの一番上の目盛りは、A ランク 1 位の *Journal of Personality and Social Psychology* であり、二番目の目盛りは 2 位の *PB* を、三番目の目盛りは 3 位の *PR* を示している。このようにして、1985 年の A ランクには 14 誌が並んでいる。同様に、1965 年の A ランクには 23 誌が、1945 年の A ランクには 11 誌が、縦に並んでいる。

雑誌名の後の点線が達している点は、その雑誌の初出の年度における順位である。派生した雑誌は、参考として一点破線で示した。安定型では 1985 年の 1 位と 8 位が派生した雑誌である。

安定型は *PR*, *PB*, *American Journal of Psycholo-*

心理学分野におけるコアジャーナルの変遷



(雑誌の正式名称は付録参照)

第4図 下降型の変遷

gy, PR Monograph Supplements, Science, Journal of Abnormal & Social Psychology (雑誌名の変遷は³²⁾ 参照), Journal of Experimental Psychology (雑誌名の変遷は³²⁾ 参照), Journal of Applied Psychology, American Psychologist の 9 誌である。安定

型は, A, B ランク内で順位が変動している雑誌であり, 過去から現在まで常に重要視されたものと言える。

前 5 誌は 1905 年からあらわれたコアジャーナルである。American Journal of Psychology はやや下降の傾向があり, Science も 1945 年に変動が激しいが, 許容

範囲と考える。PR Monograph Supplements は 1910 年に Psychological Monographs と改題、1965 年に単独の冊子としては廃刊され、APA のモノグラフに発展的に統合されたため、1985 年には現われていない。

後者の 4 誌は 1906 年以降に創刊された雑誌である。Journal of Abnormal & Social Psychology と Journal of Experimental Psychology は、それぞれ新しい雑誌が分化した後は少し順位が下がったが、それでも高位を保っている。Journal of Applied Psychology は A の下位から B の上位で安定している。これは、この雑誌が PB のみで多く引用され、PR では余り引用されていないためである。

これらの安定型の 9 誌は、心理学一般誌が 4、心理学専門誌が 3、心理学分野以外の雑誌が 1 である。

b. 下降型

下降型は、創刊されてから順位が下がるのみの雑誌で、以前は盛んに研究されたが、現在ではあまり研究が活発ではない領域の雑誌と考えられる。これは 14 誌であった。変遷を第 4 図に示す。

第 4 図は第 3 図と同様の構造であるが、コアジャーナルとされなかった年度については、視覚的に分かりやすくするために、C の下に点を設けた。また、1925 年の Zeitschrift fuer Psychologie と Zeitschrift fuer Sinnesphysiologie は、1905 年の Zeitschrift fuer Psychologie und Physiologie der Sinnesorgane (1890 年創刊) が 1906 年に分かれて創刊された雑誌である。ここでは参考として示した。

3 回以上コアジャーナルとなってから消えた雑誌は Brain のみである。他の雑誌は 2 回あらわれると次の年度には C ランク以下となっている。これらのコアジャーナルの分類は、心理学分野が 6 誌、哲学が 3 誌、医学が 2 誌、社会科学が 2 誌であった。

c. 上昇下降型

順位が一度上昇し、その後下降していく雑誌である。このコアジャーナルは、特定の一時期に活発に研究された領域の雑誌と考えられる。

これには、Journal of Consulting and Clinical Psychology (1937 年から 1967 年までは Journal of Consulting Psychology), Archiv fuer die gesamte Physiologie des Menschen und der Tiere, American Journal of Orthopsychiatry, Journal of Personality (1944 年までは Character & Personality), American Journal of Psychiatry, Psychosomatic Medicine,

Journal of Genetic Psychology (1924 年から 1953 年までは Pedagogical Seminary and Journal of Genetic Psychology) が含まれる。これらは、3 誌が心理学分野の雑誌で、残り 4 誌は医学関係の雑誌である。

d. 変動型

変動型は、一定のパターンがみられない雑誌である。これは、心理学分野にある程度関わっているが、その時代の傾向によって研究者の関心の度合いが違う分野、領域の雑誌と考えられる。

変動型のコアジャーナルは、Journal of Comparative and Physiological Psychology (1921 年から 1946 年までは Journal of Comparative Psychology), Psychometrika, American Journal of Physiology, Journal of Comparative Neurology, Archives of General Psychiatry, Journal of Nervous and Mental Disease, Journal of Educational Psychology, British Journal of Psychiatry (1962 年までは Journal of Mental Science) であった。対象領域は、精神医学系が多く 5 誌、計量心理学 (DDC 分類では心理学一般に含まれる)、比較心理学、教育心理学が各 1 誌である。

上記のタイプ分けにおいて、上昇するのみの変動を示す上昇型はなかった。また、1 回しかあらわれなかったコアジャーナルには、様々な内容の雑誌が含まれた。中にはその年度の 1 論文だけに非常に多く引用された雑誌もあった。1925 年の Journal of Criminol Law and Criminology や、Journal of Delinquency がその例である。

4. 各年度のコアジャーナル群の傾向

次に、各コアジャーナルの順位は考慮せず、各年度について A, B, C ランクをまとめ、コアジャーナル群としての各年度の傾向を分析した。分析は、分類、出版年、創刊年の 3 点から行った。

a. 分類の変遷

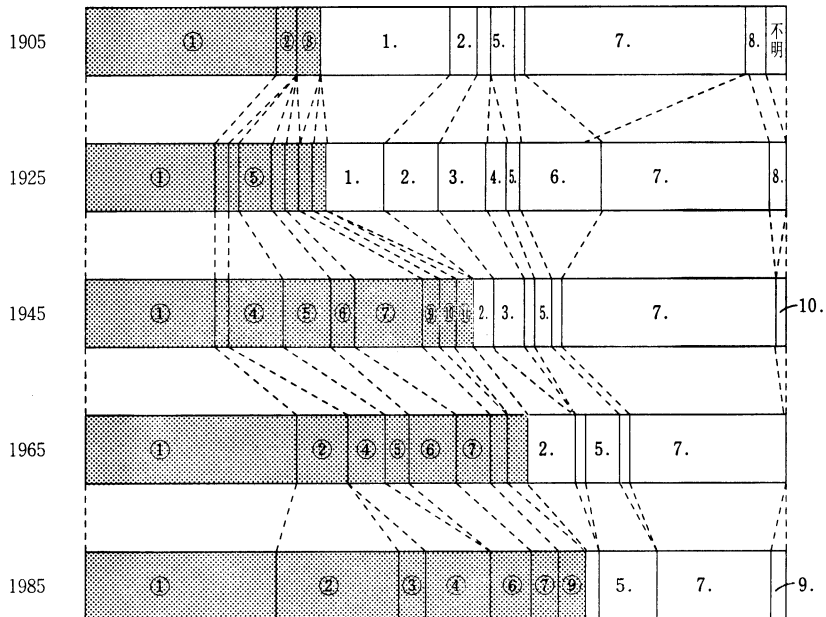
各年度のコアジャーナルの分類の変遷を第 5 図に示す。この図より、まず、全コアジャーナル中に占める、心理学分野を対象とするコアジャーナル (DDC 分類が 150-159 の雑誌) の割合の増加が明らかである。この原因は、②から⑩までの、特定専門領域を対象とする心理学専門誌の割合の増加である。また、図中の①の、心理学一般誌の割合の安定もみられる。

他分野のコアジャーナルでは、哲学分野の雑誌の減少が明らかである。また、1925 年にはライフサイエンス、比較心理学分野の増加がみられる。近年の傾向では、生

心理学分野におけるコアジャーナルの変遷

年	心理学分野											他分野									
	一般誌	専門誌																			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.
	150	152	153	155	156	157	158	150/100	150/370	150/610	150/301	100	301	320-40	370	500	570	610	620	640	650
	心理学	生理学的心理学	知能と知性	差異・発生心理学	比較心理学	異常・臨床心理学	応用心理学	心理学と哲学	教育学	医学	社会学	哲学	社会学	政治・経済・法学	教育学	自然科学	ライフサイエンス	医学	工学	家庭経済と家族生活	経営と補助サービス
雑誌数	1905	9	1					1		1	1	6	1.3	0.7		1	0.5	10.5	1		1
	1925	8	1	0.5	2.5	1	1		1	1	1	4	4	3	1.5	1	5.5	12	1		
	1945	7	1	3	3	1.5	4		1	1	1	1	2	0.5	1	0.5	14			0.5	
	1965	12	3	2	1.5	2.5	2		1	1	1	3		0.5	2	0.5	9				
	1985	7	4.5	1	2.5	1.5	1		1			0.5			2		4.5		0.5		

小数点は分類重出.



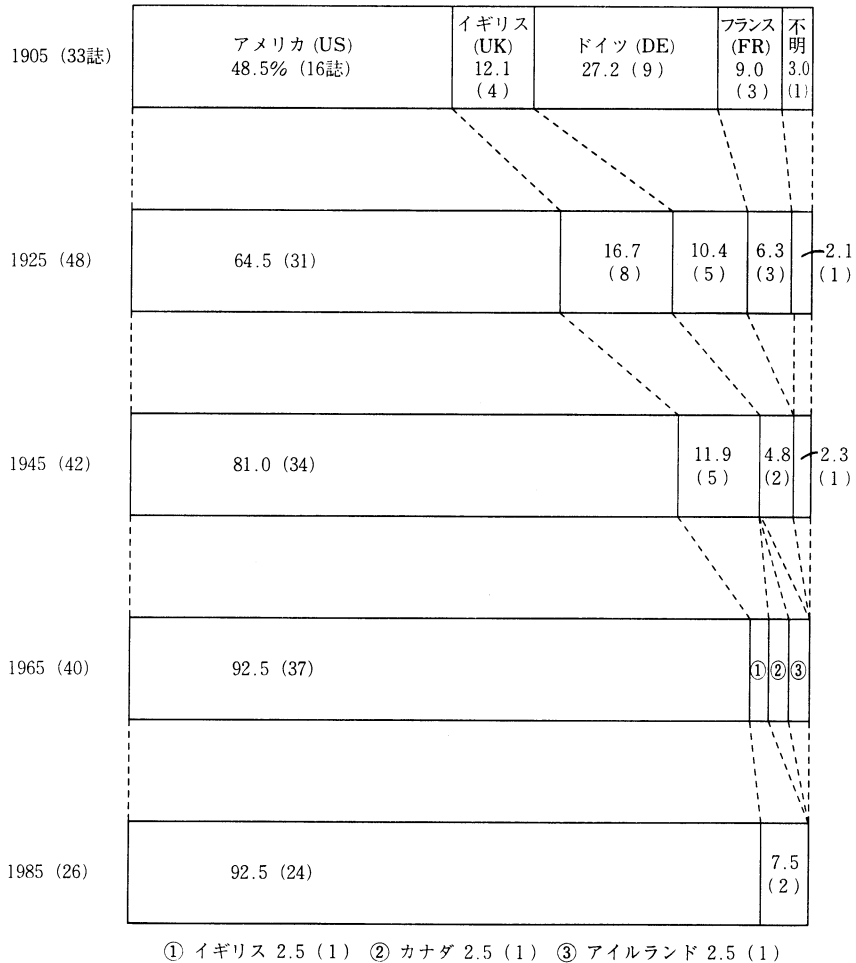
第5図 コアジャーナルの対象分野

理学的心理学, 知能と知性, 差異・発生心理学の研究領域がそれぞれ増加している。

b. 出版国による変遷

Ulrich's で調べた各コアジャーナルの出版国を第6

図にまとめた。ドイツ, イギリス, フランスのコアジャーナルが減少し, アメリカのコアジャーナルが増加していることがわかる。



第6図 コアジャーナルの出版国

c. 創刊年による変遷

各年度のコアジャーナルが、その調査対象年からどのくらい以前に創刊された雑誌であるかを第7図にまとめた。調査年から5年前まで、6年前から10年前まで、11年前までから20年前まで、以下10年おきに創刊年を分類した。つまり、1901年から1905年に創刊された雑誌は、1945年においては45年前、1985年には80年前と分類される。

1905年には、5年前までに創刊された雑誌がコアジャーナルの12.1%を占めていた。しかしその割合は年々減少していき、1985年には0%であった。

この結果は、分野が発展していくに従って、より以前

に創刊されたものがコアジャーナルになっていく、つまり、新しく創刊された雑誌がコアジャーナルになりにくくなっていくことを示している。ただし、コアジャーナルのみでなく、心理学分野の全ての雑誌においてこのような傾向があるという可能性も考えられる。

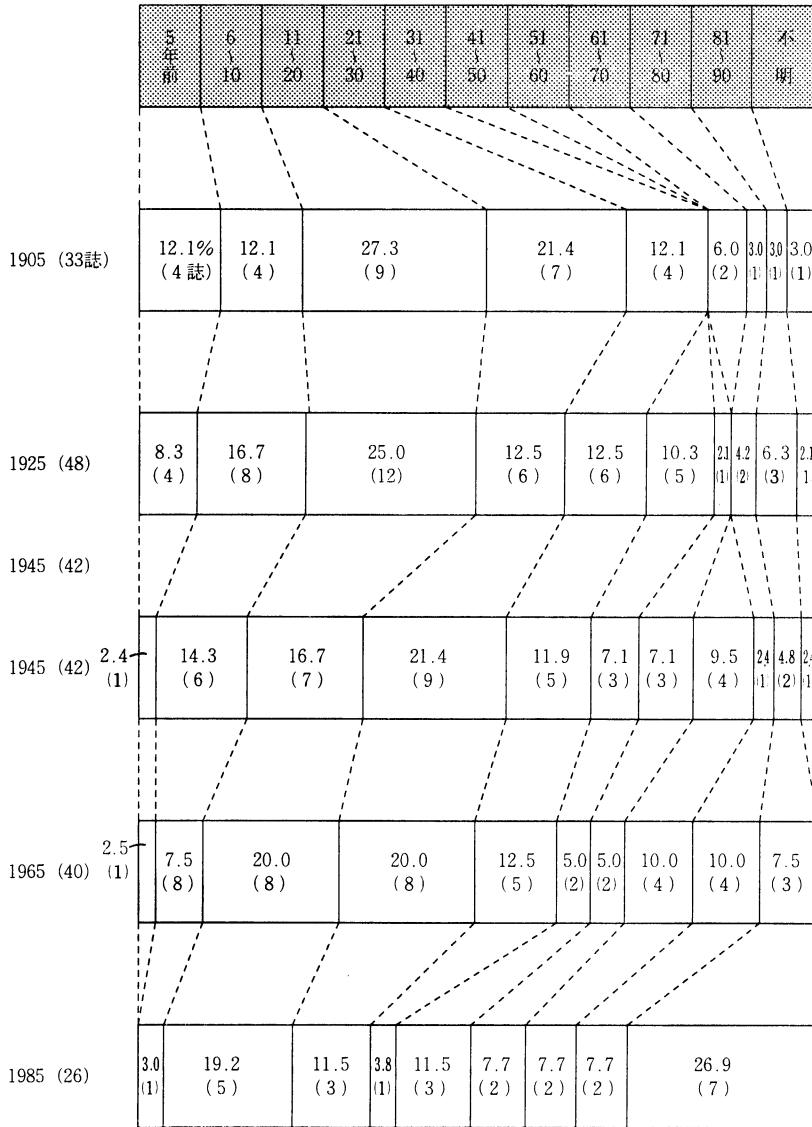
IV. コアジャーナルの変遷にあらわれた分野の変化

A. 心理学分野の哲学分野からの独立

IIIにおける順位の変遷のタイプ分けにおいて、安定型のコアジャーナルには哲学分野の雑誌は含まれていなかった。下降型のコアジャーナルには3誌が含まれてお

心理学分野におけるコアジャーナルの変遷

創刊されたのは調査年より何年前であるか



第7図 コアジャーナルの創刊年

り、これらは1945年にはすべて消えている。

また、各年度別の傾向では、1905年には、哲学分野のコアジャーナルは、哲学と心理学一般が重出された1誌を合わせると2割以上を占めていた。しかし1945年には0%となっている。

これは、心理学分野の哲学分野からの独立の反映であろう。哲学分野の雑誌は、たとえ分野発展の初期は重要

と見なされていたとしても、現在では余り重要とされないことが、コアジャーナルの変遷にあらわれていると考えられる。

B. 心理学分野の確立と専門化

第5図より、全コアジャーナルに占める、心理学分野を対象とするコアジャーナルの割合の増加が明らかであ

る。これは、心理学分野の確立の影響と考えられる。

心理学分野のコアジャーナルの増加には、以下のような要因が考えられる。(1) 心理学分野の研究領域が次第に広がりつつも確定していった。そのため他分野との境界が明確になり、他分野の雑誌の利用が減った。(2) 心理学分野の雑誌の全数が増加した。

また、心理学分野を対象とするコアジャーナルの増加は、分野内の専門領域を対象とする心理学専門誌の増加によることも、第5図から読み取れる。これは心理学分野の発展の影響であろう。分野の発展と共に、分野内の専門領域の重要性が高まってきていると考えられる。

心理学専門誌の増加については以下のような要因が考えられる。(1) 分野内の研究領域の細分化とともに、各領域ごとに雑誌が創刊され、利用されるようになった。(2) 既存分野と心理学分野の研究が重なる領域では、初期は既存分野の雑誌を利用してしたが、分野の発展と共に、心理学の立場からその領域を研究する心理学専門誌が創刊され、利用されるようになった。

C. 心理学分野内の研究動向の変化

コアジャーナルの変遷に、心理学分野内の研究動向の影響がいくつかみられる。行動主義、認知心理学、パーソナリティ研究(人格心理学領域)などである。

1. 行動主義の影響

行動主義は、現代心理学の歴史において、主要な学説の一つである。これは、アメリカの Watson, J. B. による 1913 年の行動主義宣言の発表から始まる。彼は動物心理学、条件反射の研究から影響を受け、心理学を客観的に観察できる行動のみを扱う行動の科学とみなした。行動主義は 1920 年代のアメリカでの最も重要な心理学理論であった³¹⁾。現在ではこれに対立する様々な学説も生まれており、中心的な研究分野というわけではなくなっている。

この影響が、1925 年における DDC 分類 156 の比較心理学と 570 のライフサイエンス分野の割合の増加にあらわれている。156 には動物心理学が、570 には生物学がそれぞれふくまれており、行動主義の関連領域といえる。その後この割合は減少し、1985 年にはこの領域のコアジャーナルはなくなっている。

2. 認知心理学の影響

認知心理学は 1960 年頃から研究されている領域である³¹⁾。近年その研究はますます盛んになっている。

第5図から、心理学専門誌の中で、DDC 分類 152, 153

の雑誌の割合の増加が明らかである。152 には実験心理学、知覚、感情の研究など、153 には知能、記憶、認知の研究などの、認知心理学に関わる領域が含まれる。

これらのコアジャーナルは、創刊年が新しい雑誌が多い。1985 年における 152-153 のコアジャーナル 6 誌中、4 誌が 1966 年以降に創刊されている。これらは *Perception and Psychophysics* (1966 年創刊)、*Cognitive Psychology* (1970 年創刊)、*Memory and Cognition* (1973 年創刊)、*Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance* (1975 年創刊) である。残り 2 誌は、安定型の *Journal of Experimental Psychology* (1916 年創刊) と、社会学と生理学的心理学が重出されている *Journal of Experimental Social Psychology* (1965 年創刊) である。

このように、近年創刊された認知心理学の雑誌が数多くコアジャーナルになっていることは、研究動向のあらわれと考えられる。

ただし、各雑誌の順位の変遷のタイプの分析では、この傾向はあらわれていない。1965 年の調査時点では、これらの雑誌はまだ創刊されておらず、2 回以上の調査年度に渡って変遷の傾向を明らかにすることができなかったためである。今後の調査でその傾向が明らかになると思われる。

3. パーソナリティ研究、人格心理学

現代の人格心理学の基礎は、1930 年代までに作られたといわれる。その後第2次大戦後アメリカを中心に研究が進められている³²⁾。この領域は DDC 分類 155 の差異・発生心理学のうちの 155.2 に含まれる。

155.2 のみの分類をもつ雑誌は、全コアジャーナル 115 誌中 3 誌である。

Journal of Personality は、1932 年に創刊された。*Character & Personality* から 1944 年に誌名変更された。1945 年から 1985 年にかけてコアジャーナルとなっている。

Rorschach Research Exchange (1936 年創刊) は、1921 年に Rorschach, H. (1884-1922) によって発表された人格の研究のためのテストに関する雑誌である。1945 年にのみコアジャーナルとなっている。なお、現在は *Journal of Personality Assessment* と改題されている。

Journal of Personality and Social Psychology は、安定型の *Journal of Abnormal Psychology* から 1965 年に派生して創刊された。1985 年の A ランク 1 位であ

る。

これらの雑誌はすべて 1930 年以降の創刊であり、1925 年までのコアジャーナルには人格心理学の雑誌は含まれていない。これは、研究動向の反映であろう。

各雑誌の変遷のタイプでは、雑誌数が少なく、1 誌は 1965 年創刊であるため、はっきりした傾向はでていない。ただし、1945 年、1965 年にかけて順位が上昇した *Journal of Personality* (上昇下降型) の 1985 年の順位の低下には、1965 年創刊の *Journal of Personality & Social Psychology* の影響があると思われる。

D. その他の影響

第 2 次世界大戦の影響がみられる。1945 年における *Navy Medical Bulletin*, *War Medicine* などの、軍事医学の雑誌の存在である。

また、第 6 図から、アメリカを出版国とするコアジャーナルの増加が明らかである。この原因としては、アメリカの心理学が確立していき、アメリカが心理学分野の研究の中心となった。そのため自国の雑誌で研究活動に必要な情報を得ることができるようになったことが考えられる。

V. おわりに

本稿では、心理学分野におけるコアジャーナルの変遷調査を行なった。選定された各年代のコアジャーナル計 115 誌について、各雑誌の順位の変動を調べ、各年度のコアジャーナル群の傾向を分析した。その結果、以下のことが明らかになった。

- ①各コアジャーナルの順位の変遷は、いくつかの傾向がみられ、そのタイプ分けが可能であった。
- ②各年度のコアジャーナル群とその順位の変遷には、研究動向の変化による影響がみられた。

①の変遷のタイプの内、最も顕著な傾向がみられたのが安定型である。これは、分野の研究動向の変化とかわりなく、よく利用されるコアジャーナルと考えられる。

安定型の 9 誌は心理学一般誌が 5、心理学専門誌が 3、心理学分野以外の雑誌が 1 であった。この心理学専門誌 3 誌は、対象とする領域が生理学的心理学、異常・臨床心理学、応用心理学とそれぞれ違う。そのため 3 誌を合わせると、心理学分野の主な研究領域である自然科学関係、精神医学関係、社会科学関係、教育学関係の内、前 2 者が全て含まれる。また、応用心理学を対象とする

Journal of Applied Psychology が存在するので、残る社会科学関係、教育学関係の領域でも応用分野については安定型のコアジャーナルの対象となると考えられる。

このように、より重要とされる安定型のコアジャーナルは、心理学分野全体を幅広く対象としていることが明らかになった。

その他に、心理学分野を対象とするコアジャーナルの変遷過程について、全体的な一つの傾向がみられた。それは、各年における心理学分野を対象とするコアジャーナルのほとんどが、創刊された後最初の調査年でコアジャーナルとなっていたことである。例外は心理学一般誌、専門誌で各 4 誌あるが、そのうちアメリカ以外の国の雑誌が 5 誌である。これらは、引用文献を収集した調査対象誌がアメリカの雑誌であることが影響していると考えられる。

心理学分野以外を対象とするコアジャーナルでは、創刊後かなりたってから急に心理学分野で注目され、高い順位となったものもある。心理学分野のコアジャーナルには余りその様な変動傾向はない。この原因は、心理学分野の雑誌は、心理学分野の中心となる研究において必要とされた場合に、その要求にあわせて創刊されるためと考えられる。

②については、心理学分野を対象とするコアジャーナル、特に分野内の専門研究領域を対象とするコアジャーナルが増加していた。これは、分野の確立、専門化と関わっていると考えられる。また、分野内の専門領域の研究の影響も見られた。

このように、コアジャーナルの変遷には、対象分野の確立、研究動向の変化の影響があることが明らかになった。今後の研究課題としては、分野の研究動向についてのより深い分析、調査対象分野の拡大などが考えられる。

最後に、本稿作成にあたり、終始御指導いただいた慶應義塾大学文学部図書館・情報学科の上田修一教授、貴重な御助言をいただいた同学科の倉田敬子助手に心から感謝の意を表します。

- 1) 篠本有希, 上田修一. “遺伝子分野のコアジャーナル: 雑誌の構造からみた先端技術分野と既存分野の関係”. *Library and Information Science*. No. 22, p. 31-45 (1984).
- 2) 大山正ほか編. *心理学小辞典*. 東京, 有斐閣, 1978, p. 142.
- 3) 杉本助男編. “第 1 講 心理学とは何か”. *心理学* 30

- 講. 東京, 北大路書房, 1974, p. 1-8.
- 4) 田中国夫ほか編. 図解心理学 ATLAS. 東京, 北大路書房, 1986.
 - 5) 長田秀一. “わが国心理学研究者の海外誌への投稿傾向: Psychological Abstracts (PA) による分析”. *Library and Information Science*. No. 20, p. 81-90 (1982).
 - 6) Pinski, G.; Narin, F. “Structure of the psychological literature”. *Journal of the American Society for Information Science*. Vol. 30, (May), p. 161-168 (1979).
 - 7) Miwa, M. et al. “Characteristics of journal citations in the social sciences: comparison of SSCI Data of 1972 and 1977”. *Library and Information Science*. No. 18, p. 141-155 (1980).
 - 8) Cason, H.; Lubotsky, M. “The influence and dependence of psychological journals on each other”. *Psychological Bulletin*. Vol. 33, p. 95-103 (1936).
 - 9) Doreian, P. “On the ranking of psychological journals”. *Information Processing & Management*. Vol. 25, No. 2, p. 205-214 (1989).
 - 10) 岡谷大. “引用文献とアンケート調査による外国雑誌の利用分析”. *日本農学図書館協議会会報*. No. 58, p. 1-22 (1985-6).
 - 11) 藤本績. “農学部門における文献情報の解析: Key Journal の経年変化”. *日本農学図書館協議会会報*, No. 39, p. 10-19 (1979).
 - 12) Mace, K. C.; Warner, H. D. “Ratings of psychology journals”. *American Psychologist*. Vol. 28, p. 84-186 (1973).
 - 13) Koulack, D.; Keselman, H. J. “Ratings of psychology journals by members of the American Psychological Association”. *American Psychologist*. Vol. 30, p. 1049-1053 (1975).
 - 14) Peery, J. C.; Adams, G. R. “Qualitative ratings of human development journals”. *Human Development*. Vol. 24, p. 312-319 (1981).
 - 15) Sharpley, C. F.; Cash, DonL. “Students' evaluations of articles from eight professionally-oriented journals”. *Australian Psychologist*. Vol. 21, No. 3, p. 389-394 (1988).
 - 16) Buss, A. R.; McDermott, J. R. “Ratings of psychology journals compared to objective measures of journal impact”. *American Psychologist*. Vol. 31, p. 675-678 (1976).
 - 17) White, M. J.; White, K. G. “Citation analysis of psychology journal”. *American Psychologist*. Vol. 32, p. 301-305 (1977).
 - 18) Rushton, J. P.; Roediger, H. L. “An evaluation of 80 psychology journals based on the Science Citation Index”. *American Psychologist*. Vol. 33, p. 520-523 (1978).
 - 19) Garfield, E. “Journal citation studies: 19. Psychology and behaviour journals”. *Current Contents*. No. 9, p. 5-9 (1975) (March 3). Reprinted in Garfield, E. *Essays of an Information Science*. Vol. 1, Philadelphia, Institute for Scientific Information Press, 1977, p. 231-235.
 - 20) Buffardi, L. C.; Nichols, J. A. “Citation impact, acceptance rate, and APA journals”. *American Psychologist*. Vol. 36, p. 1453-1456 (1981).
 - 21) Haynes, J. P. “An empirical method for determining core psychology journals”. *American Psychologist*. Vol. 38, No. 8, p. 959-961 (1983).
 - 22) 長田秀一. “学術雑誌総目録を用いた心理学関係の洋雑誌の分析”. *医学図書館*. Vol. 32, No. 4, p. 358-370 (1985).
 - 23) Evenson, R. C.; Johnson, M. E. “Helpful journals”. *Hospital & Community Psychiatry*. Vol. 39, No. 5, p. 561-562 (1988).
 - 24) Hohn, R. L.; Fine, M. J. “Ratings and misratings: A reply to Mace and Warner”. *American Psychologist*. Vol. 28, p. 1012 (1973).
 - 25) Boor, N. “Unfamiliarity breeds disdain: Comments on department chairmen's ratings of psychology journals”. *American Psychologist*. Vol. 28, p. 1012-1013 (1973).
 - 26) Gynther, M. D. “On Mace and Warner's journal ratings”. *American Psychologist*. Vol. 28, p. 1013 (1973).
 - 27) Levin, J. R.; Kratochwill, T. R. “The name of the journal fame game: quality or familiarity?” *American Psychologist*. Vol. 31, p. 673-674 (1976).
 - 28) Adams, G. R.; Peery, J. C. “If you can name it, I can rank it”. *American Psychologist*. Vol. 35, p. 109-110 (1980).
 - 29) Porter, A. L. “A comparison of the various ratings of psychology journals”. *American Psychologist*. Vol. 33, p. 295-299 (1978).
 - 30) Porter, A. L. “Use lists with caution”. *American Psychologist*. Vol. 31, p. 674-675 (1976).
 - 31) Schultz, D. 現代心理学の歴史. 村田孝次訳. 東京, 培風館, 1986, 435 p.
 - 32) 以下に処理例を示す.
1906年に創刊された *Journal of Abnormal Psychology* は, 1921年に *Journal of Abnormal Psychology & Social Psychology*, 1925年に *Journal of Abnormal & Social Psychology* と改題した. 1965年にこの雑誌から *Journal of Personality & Social Psychology* が分化し, 本誌の方は再び *Journal of Abnormal Psychology* となった. これらは, *Journal of Personality & Social Psychology* 以外は1離誌と見なした.

心理学分野におけるコアジャーナルの変遷

Journal of Experimental Psychology は 1975 年に 4 誌に分かれた。 *Journal of Experimental Psychology: Animal Behavior Process, Human Perception and Performance, Learning, Memory, and Cognition*, そして: *General* であ

る。これも: *General* を以前と同じ誌名とみなし、引用数をまとめた。

- 33) 加藤義明, 中里至正編. “第 2 章 人格心理学の動向”. 入門人格心理学. 八千代出版. 1989, p.13-32. (基礎心理学IV)

付録: コアジャーナルの正式名称 (第 2 図に合わせ各年別に順位で配列した) [順位 略称=正式名称]

1985

- 1 JPersSocP = Journal of Personality and Social Psychology
- 2 PB = Psychological Bulletin
- 3 PR = Psychological Review
- 4 PercPphys = Perception and Psychophysics
- 5 JExP = Journal of Experimental Psychology
- 6 JAbP = Journal of Abnormal Psychology
- 7 Science
- 8 JExPHum = Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance
- 9 ChiDe = Child Development
- 10 AP = American Psychologist
- 11 JEdP = Journal of Educational Psychology
- 12 AJP = American Journal of Psychology
- 13 BehResT = Behaviour Research and Therapy
- 14 Nature
- 15 JApP = Journal of Applied Psychology
- 16 CogP = Cognitive Psychology
- 17 BJPat = British Journal of Psychiatry
- 18 AGenP = Archives of General Psychiatry
- 19 MemCog = Memory and Cognition
- 20 PReports = Psychological Reports
- 21 JPers = Journal of Personality
- 22 JExSocP = Journal of Experimental Social Psychology
- 23 JCCP = Journal of Consulting and Clinical Psychology
- 24 Pmet = Psychometrika
- 25 AJPat = American Journal of Psychiatry
- 26 PsomMed = Psychosomatic Medicine

1965

- 2 JAbSocP = Journal of Abnormal Psychology and Social Psychology
- 3 JCPP = Journal of Comparative and Physiological Psychology
- 7 JConsP = Journal of Consulting Psychology
- 11 P & MS = Perceptual and Motor Skills
- 12 E & PM = Educational and Psychological Measurement
- 14 JP = Journal of Psychology
- 15 JVLVB = Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior
- 16 CanJP = Canadian Journal of Psychology
- 17 PM = Psychological Monographs
- 18 JClinP = Journal of Clinical Psychology
- 19 JGenP = Journal of General Psychology
- 20 JGetP = Journal of Genetic Psychology
- 22 AJPhy = American Journal of Physiology
- 23 BJP = British Journal of Psychology

- 24 HumRelat =Human Relations
- 26 AJOrth =American Journal of Orthopsychiatry
- 27 JNMDD =Journal of Nervous and Mental Disease
- 28 JAcSocA =Journal of the Acoustical Society of America
- 29 JExABeh =Journal of the Experimental Analysis of Behavior
- 30 E & ClinN =Electroencephalography & Clinical Neurophysiology
- 32 PersP =Personnel Psychology
- 33 ASocR =American Sociological Review
- 34 AnnRP =Annual Review of Psychology
- 36 JCompN =Journal of Comparative Neurology
- 40 Pat =Psychiatry

1945

- 6 JSocP =Journal of Social Psychology
- 8 APNY =Archives of Psychology, N.Y.
- 12 JCompP =Journal of Comparative Psychology
- 15 ANeuPat =Archives of Neurology and Psychiatry, Chicago
- 19 PubOpQ =Public Opinion Quarterly
- 20 Sociomet =Sociometry
- 21 CompPM =Comparative and Psychological Monographs
- 22 GentPM =Genetic Psychological Monographs
- 24 Cha & Pers=Character & Personality
- 25 NavMedB =U.S. Navy Medicine Bulletin
- 26 PersJ =Personnel Journal
- 28 IndPtech =Industrielle Psychotechnic
- 29 PatQ =Psychiatric Quarterly
- 30 Brain
- 31 BMenCl =Bulletin of the Menninger Clinic
- 33 MH =Mental Hygiene
- 34 OccupP =Occupational Psychology
- 35 ZGNPat =Zeitschrift fuer gesamte Neurologie und Psychiatrie
- 36 RorResEx =Rorschach Research Exchange
- 37 AJMentD =American Journal of Mental Deficiency
- 38 War Med =War Medicine
- 39 BJMP =British Journal of Medical Psychology
- 40 Sch & S =School & Society
- 41 PtechZ =Psychotech Z
- 42 Sch & S =School & Society

1925

- 6 JPhil =Journal of Philosophy
- 7 ArGesP =Archiv fuer die gesamte Psychologie
- 9 AGesPhy =Archiv fuer die gesamte Physiologie des Menschen und der Tiere
- 16 ZP =Zeitschrift fuer Psychologie
- 18 JSocF =Journal of Social Forces
- 19 Monist
- 21 Psyche
- 22 JEdRes =Journal of Educational Research
- 23 JCrimLC =Journal of Criminol Law and Criminology
- 24 CRSdeB =Comte Rendu Societe de Biol
- 25 Endocri =Endocrinology
- 28 AJ Soc =American Journal of Sociology
- 29 PhyR =Physiological Review

心理学分野におけるコアジャーナルの変遷

- 30 ABioStPe =Arch. d. sc. Biol., St. Peters b. (正式名称不明)
- 32 JdeP =Journal de Psychologique
- 33 JDelin =Journal of Delinquency
- 34 JPhy =Journal of Physiology
- 35 PedSem =Pedagogical Seminary and Journal of Genetic Psychology
- 36 PASocS =Publications of American Sociological Society
- 37 Lancet
- 38 PhiR =Philosophical Review
- 39 PRSM =Proceedings of the Royal Society of Medicine
- 40 RPhil =Revue Philosophique
- 41 BMedJ =British Medical Journal
- 42 JApSoc =Journal of Applied Sociology
- 43 JHered =Journal of Heredity
- 44 JMS =Journal of Mental Science
- 45 PhStud =Philosophische Studien
- 46 PalR =Psychoanalytic Review
- 47 SciMon =Scientific Monthly
- 48 ZSinphy =Zeitschrift fuer Sinnesphysiologie
- 1905
- 4 ZPPS =Zeitschrift fuer Psychologie und Physiologie der Sinnesorgane
- 8 AnneeP =L'Annee Psychologique
- 10 PRMS =Psychological Review Monograph Supplements
- 13 HarvPS =Harvard Psychological Studies
- 14 YalePS =Yale Psychological Studies
- 16 HibJ =The Hibbert Journal
- 17 PopSM =Popular Science Monthly
- 19 BosMSJ =Boston Medical and Surgical Journal
- 22 MonPatN =Monatsschrift fuer Psychiatrie und Neurologie
- 23 CenNPat =Centralblatt fuer Nervenheilkunde und Psychiatrie
- 25 IJE =International Journal of Ethics
- 26 PhilTRSL =Philosophical Transactions of the Royal Society of London
- 27 AbPhiG =Abhandlungen zur Philosophie und ihrer Geschichte
- 28 AZPat =Allegmaine Zeitschrift fuer Psychiatrie
- 29 AnnOcul =Annales d'Oculistique
- 30 APat =Archiv fuer Psychiatrie und Neurologie
- 31 BIAca =Bulletin International de l'Academie des Sciences de Cracovie Classe de Philologie,
Classe d'Histoire et de Philosophie
- 32 JfPN =Journal fuer Psychologie und Neulorogie
- 33 PI =Psychological Index